

平成 27 年度川島町町民意識調査

報告書

平成 27 年 1 2 月

川 島 町

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果のまとめと考察	3
1	住環境やまちづくりに関する意識	3
2	就業（しごと）に関する意識	5
3	調査結果	6
1	ご本人（あなた）について	6
2	川島町のことについて	9

1 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、これからの町政施策を検討するうえで、広く町民のニーズを把握するとともに、町民のまちづくりに関するご意見、要望等を町の行政運営に反映させるため、平成20年、平成23年度に引き続き実施したものである。なお、「第5次川島町総合振興計画策定及び地方創生のための町民アンケート」と併せて実施したものであり、調査結果については該当する部分を抜粋し、作成したものである。

(2) 調査の概要

調査対象	町内在住の18～49歳の方 1,000人 町内在住の50歳以上の方 1,000人 計2,000人
調査期間	平成27年7月1日～平成27年7月17日
調査方法	郵送配付・回収
配付数	2,000票
回答率（回答率）	18～49歳 279票（27.9%） 50歳以上 526票（52.6%） 合計 805票（40.3%）

(3) 報告書の見方

- 「調査結果」の図表は、原則、回答者の構成比（百分率）で示している。
- 「n」は「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 設問の中には前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合がある。
- 図表の「0.0」は、四捨五入の結果または回答者が皆無であることを示している。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合がある。

(4) 回答者属性別クロス集計について

- 設問の内容に応じ、特徴的な傾向がみられる属性別クロス集計結果を掲載している。
- クロス集計表の場合、縦軸の「無回答」は表示していないため、合計と合致しない場合がある。
- クロス集計で母数が極端に少数の構成比(百分率)は統計的誤差が大きい可能性があり、構成比(百分率)の取扱いには注意が必要である。

(5) 自由意見について

- 調査に設けた自由意見及び選択肢に付属する自由記入欄の記述については、別冊の「その他・自由意見」報告書としてまとめている。

(自由意見のみの設問)

問 21 川島町のまちづくりや人口減少問題についてご意見・ご提案をお聞かせください。(自由記入)

2 調査結果のまとめと考察

(問1「回答者属性」のまとめは除く)

1 住環境やまちづくりに関する意識

(1) 住環境の評価

<生活環境への評価と理由>

- 川島町の生活環境への評価(問2)は、住みよい31.7%、ふつう30.6%、住みにくい33.5%とほぼ拮抗している。(※住みよい：住みよい+どちらかといえば住みよい。住みにくい：どちらかといえば住みにくい+住みにくい)
- 上記を地区別で見ると、伊草(市街化調整区域)は「どちらかといえば住みよい」が最も多く、三保谷では「どちらかといえば住みにくい」が他に比べて多い。
- 居住歴別で見ると、5年以上10年未満では「どちらかといえば住みよい」が他に比べて多い。年齢別にみると20歳代、30歳代後半、50歳代後半では「どちらかといえば住みにくい」が最も多い。
- 上記の経年比較(H20及びH23調査)をみると、ふつうの割合が大幅に増加し、「住みよい」が低下している。
- 住みやすさの主な理由(問2付問ア)は「自然環境」「人柄・土地柄」「安全・安心」。特に「自然環境」と「人柄・土地柄」は経年比較(H20及びH23調査)でも常に上位に挙げられている。
- 一方、住みにくさの主な理由(問2付問イ)は「交通の利便性がよくない」が84.0%を占める。経年比較(H20及びH23調査)でも「交通の利便性」「医療・福祉施設が充実」「買い物など日常生活の利便性」の上位3項目は同じである。また、「町の発展性がない」が前回よりも多い。

●調査結果のまとめと考察

現状の生活環境への評価は全体あるいは属性によって分かれる。

川島町の特長である「自然環境」と「人柄・土地柄」に加えて、自然災害の脅威から町民の命と暮らしを守る重要な基盤である「安全・安心」への取り組みをさらに進めるとともに、生活環境の評価、そして町の発展性への評価も上昇すると考えられる。

さらには、年齢、地区、居住歴などによって評価やニーズは異なる点を考慮し、ライフサイクルや時機を得た取り組みを必要に応じて柔軟に展開することも効果的である。

(2) 安全・安心のまちづくり

- 「かわえメール」の認知度(問3)は55.2%(うち、使用中19.8%)。なお、10歳代~20歳代では「知らない」が他の年齢に比べて多い。

- 災害に備えた日頃の準備（問 4）は「保存飲料水を備蓄している」40.1%が多い。なお、10 歳代～20 歳では「特に行っていない」が他の年齢に比べて多い。
- 犯罪の未然防止への主な取り組み（問 5）は「防犯灯や街路灯の数を増やす」60.9%が最も多い。なお、65 歳以上では「近所の人とのつながりや助け合いを深める」が他の年齢に比べて多い。
- 高齢者の方などの日常生活の困り事を手助け（買物、通院の送迎、付き添い等）する「かわじま安心お助け隊」の認知度（問 6）は 55.9%。
- 「かわじま安心お助け隊」への参加意欲（問 7）は、積極派（今すぐ参加）2.2%だが、将来派（将来の参加意欲）が 36.0%に上る。中でも経営者、会社役員、自営業、会社員・団体職員（正規雇用）、公務員に将来派（将来の参加意欲）がやや多い。

●調査結果のまとめと考察

東日本豪雨災害を踏まえ、安全・安心のまちづくりの重要性が改めて認識された。

住みやすさの理由のひとつである安全・安心については、かわべえメール、かわじま安心お助け隊の認知度向上、防犯灯や街路灯の増設によって地域の安心感はさらに高まる。

特にかわじま安心お助け隊への参加は、人のためであると同時に地域貢献や自分自身の生きがいにもつながることなどを積極的に情報発信することが重要である。また、個人、職場、グループでの参加など、幅広い参加を促す工夫も検討する必要がある。

（3）各分野での重点施策への期待

- 住みやすさのひとつである自然環境・生活環境の主な向上策（問 10）は「生活排水による河川の水質汚濁の防止」44.7%、「ゴミの減量やリサイクル、再資源化」37.3%。上位項目は平成 23 年度調査と同じ結果である。

●調査結果のまとめと考察

各分野それぞれに重点施策への期待がある。

町民が「町民意向が反映された町政」を実感するためにも、町民の期待に対し、各分野で目に見える取り組みを展開することが大切になる。

（4）協働のまちづくり

- 地域活動やボランティア活動への参加意向（問 18）は、参加意向あり 35.2%、どちらともいえない 28.1%、参加意向なし 33.6%とほぼ拮抗している。（※意向あり：積極的に参加したい+できる範囲で参加したい。意向なし：あまり参加したくない+参加したくない、参加しない）
- 上記を年齢別で見ると、20 歳代前半で参加意向ありが 4 割と多く、20 歳代後半と 70 歳以上では参加意向なしが 5 割と多い。

- 地域やボランティア活動での主な希望（問 18 付問）は「美化活動や緑化活動など、住環境に関する活動」「健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動」「地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動」。
- 上記の経年比較（H20 及び H23 調査）でも環境保全、生涯学習に関する活動が上位に挙げられた。また、前回の選択肢になかった地域づくり活動が第 3 位に入った。
- 前問の結果で参加意向が比較的高い 20 歳代前半では「行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動」が最も多い。

●調査結果のまとめと考察

現状で地域活動やボランティア活動への町民の参加意向は約 3 割にとどまる。

協働のまちづくりの活動を着実に広げていくため、町民の意識啓発とともに、「美化活動や緑化活動」「健康増進、スポーツ、文化活動」「地域づくり活動」など町民の協力を得やすい活動に多くの世代が参加しやすい仕組みを行政として仕掛けていくことも必要になる。

中でも 20 歳代前半の参加意向の高さを活かし、地域づくりや伝統文化の活動の活性化を図り、“若者が活躍するまち”につなげていくことも必要である。

2 就業（しごと）に関する意識

（1）農業振興策

- 農業振興への主な期待（問 13）は「町の特産品をつくる」31.4%、「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」27.5%、「農業公社、農業法人の設立」26.8%。
- 農業以外の方の就農意向（問 14）は、積極派 8.5%（今すぐ農業をやってみたい 0.7%＋農地があれば農業をやってみたい 7.8%）、将来派 11.5%（現在の仕事をやめたら農業をやってみたい）。
- やってみたい農業（問 14 付問①）は「施設園芸（果物・野菜など）」70.3%が他を大きく上回る。
- やってみたい農業に必要なこと（問 14 付問②）は主に「資金援助」「実習場所」「土地相談」。

●調査結果のまとめと考察

町民は、農業の 6 次産業化、観光との連携、農業の体制強化を期待している。

一方、2 割程度いると考えられる就農意向のある町民を継続的に発掘し、「施設園芸（果物・野菜など）」を始める「資金援助」「実習場所」「土地相談」に一層取り組むことが必要である。

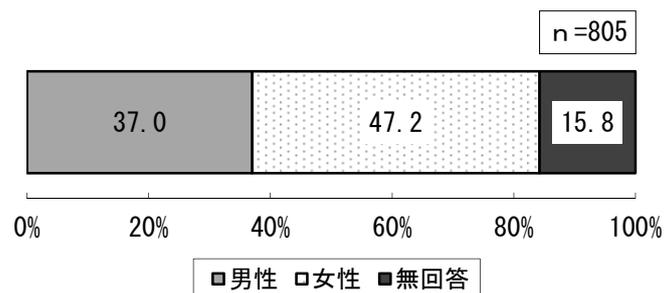
3 調査結果

1 ご本人（あなた）について

問1 あなたご自身について、項目ごとにあてはまる番号を選んでください。
（それぞれ1つに○）

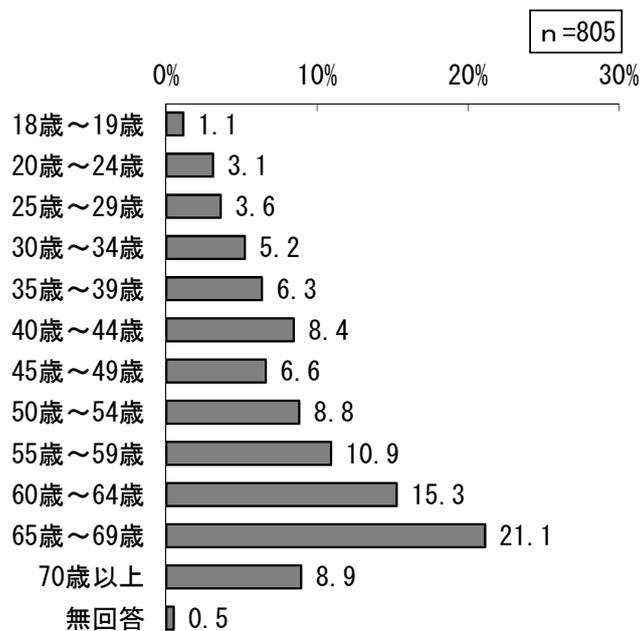
(1) 性別

○ 性別は、「男性」37.0%、「女性」47.2%。



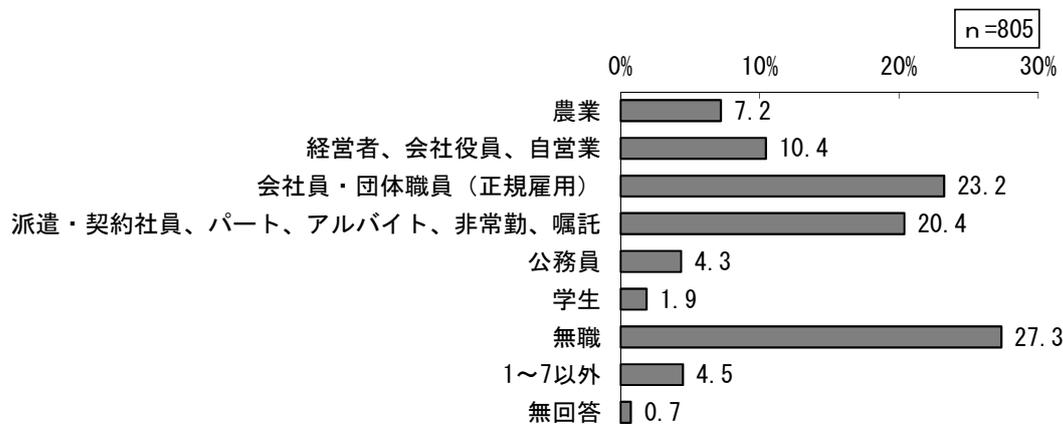
(2) 年齢

○ 年齢は、「65歳～69歳」21.1%が最も多く、次いで「60～64歳」15.3%、「55歳～59歳」10.9%と続く。



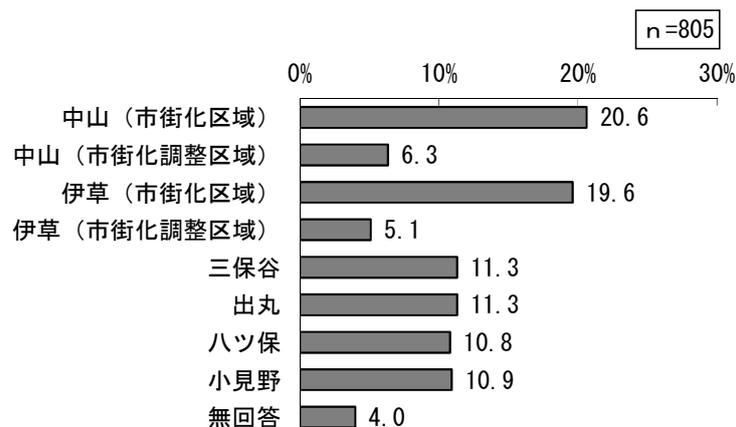
(3) 主な職業

- 主な職業は、「無職」27.3%が最も多く、次いで「会社員・団体職員（正規雇用）」23.2%、「派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託」20.4%と続く。



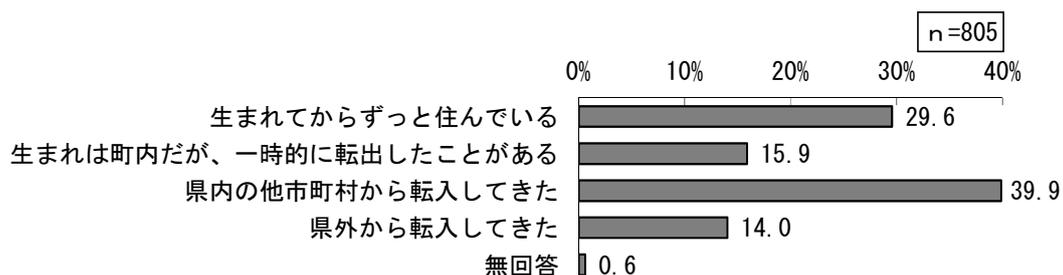
(4) 居住地区

- 居住地区は、「中山（市街化区域）」20.6%、「伊草（市街化区域）」19.6%が多く、次いで「三保谷」「出丸」ともに11.3%と続く。



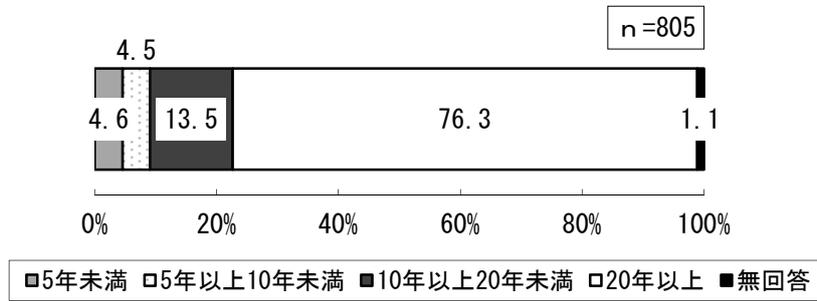
(5) 居住歴

- 居住歴は、「県内の他市町村から転入してきた」39.9%が最も多く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」29.6%、「生まれは町内だが、一時的に転出したことがある」15.9%と続く。



(6) 居住年数（合計）

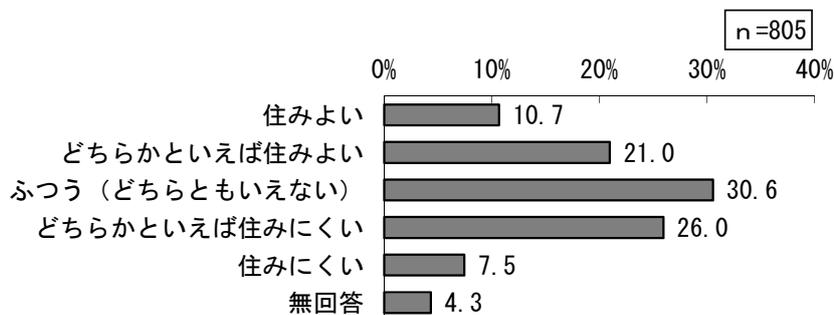
○ 居住年数（合計）は、「20年以上」76.3%が最も多く、次いで「10年以上20年未満」13.5%、「5年未満」4.6%と続く。



2 川島町のことについて

問2 まちの全体の印象についておたずねします。あなたにとって、川島町は住みよいまちですか。（1つに〇）

- 〇 川島町は住みよいかは、「ふつう（どちらともいえない）」30.6%が最も多く、次いで、「どちらかといえば住みにくい」26.0%、「どちらかといえば住みよい」21.0%と続く。



- 〇 地区別でみると、伊草（市街化調整区域）は「どちらかといえば住みよい」が最も多く、三保谷では「どちらかといえば住みにくい」が他に比べて多い。
- 〇 居住歴別でみると、5年以上10年未満では「どちらかといえば住みよい」が他に比べて多い。

	合計	住みよい	どちらか といえば 住みよい	ふつう (どちら ともい えない)	どちらか といえば 住みにく い	住みにく い
全体	805	86	169	246	209	60
	100.0	10.7	21.0	30.6	26.0	7.5
中山（市街化区域）	166	8	30	66	43	12
	100.0	4.8	18.1	39.8	25.9	7.2
中山（市街化調整区域）	51	7	13	14	13	3
	100.0	13.7	25.5	27.5	25.5	5.9
伊草（市街化区域）	158	17	35	50	44	7
	100.0	10.8	22.2	31.6	27.8	4.4
伊草（市街化調整区域）	41	4	16	14	2	4
	100.0	9.8	39.0	34.1	4.9	9.8
三保谷	91	5	17	28	29	10
	100.0	5.5	18.7	30.8	31.9	11.0
出丸	91	10	21	25	20	10
	100.0	11.0	23.1	27.5	22.0	11.0
八ツ保	87	16	15	20	26	5
	100.0	18.4	17.2	23.0	29.9	5.7
小見野	88	14	16	19	26	6
	100.0	15.9	18.2	21.6	29.5	6.8
5年未満	37	5	7	10	11	3
	100.0	13.5	18.9	27.0	29.7	8.1
5年以上10年未満	36	1	4	11	14	5
	100.0	2.8	11.1	30.6	38.9	13.9
10年以上20年未満	109	12	19	35	29	8
	100.0	11.0	17.4	32.1	26.6	7.3
20年以上	614	65	138	188	154	43
	100.0	10.6	22.5	30.6	25.1	7.0

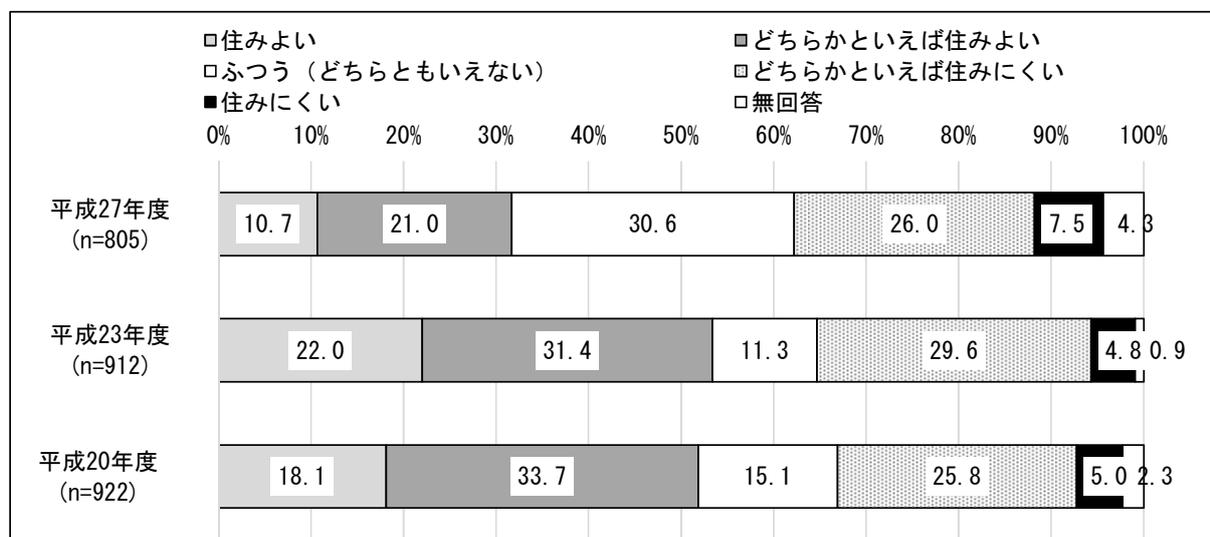
上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

- 年齢別にみると20歳代、30歳代後半、50歳代後半では「どちらかといえば住みにくい」が最も多い。

	合計	住みよい	どちらか といえば 住みよい	ふつう (どちら ともいえ ない)	どちらか といえば 住みにく い	住みにく い
全体	805	86	169	246	209	60
	100.0	10.7	21.0	30.6	26.0	7.5
18歳～19歳	9	0	0	3	3	3
	100.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
20歳～24歳	25	1	7	4	8	3
	100.0	4.0	28.0	16.0	32.0	12.0
25歳～29歳	29	2	5	7	11	4
	100.0	6.9	17.2	24.1	37.9	13.8
30歳～34歳	42	0	7	19	15	1
	100.0	0.0	16.7	45.2	35.7	2.4
35歳～39歳	51	3	12	12	13	10
	100.0	5.9	23.5	23.5	25.5	19.6
40歳～44歳	68	4	18	21	16	6
	100.0	5.9	26.5	30.9	23.5	8.8
45歳～49歳	53	6	12	15	13	5
	100.0	11.3	22.6	28.3	24.5	9.4
50歳～54歳	71	5	17	22	16	7
	100.0	7.0	23.9	31.0	22.5	9.9
55歳～59歳	88	8	14	22	33	7
	100.0	9.1	15.9	25.0	37.5	8.0
60歳～64歳	123	17	26	42	28	5
	100.0	13.8	21.1	34.1	22.8	4.1
65歳～69歳	170	28	36	55	36	7
	100.0	16.5	21.2	32.4	21.2	4.1
70歳以上	72	12	14	22	16	2
	100.0	16.7	19.4	30.6	22.2	2.8

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

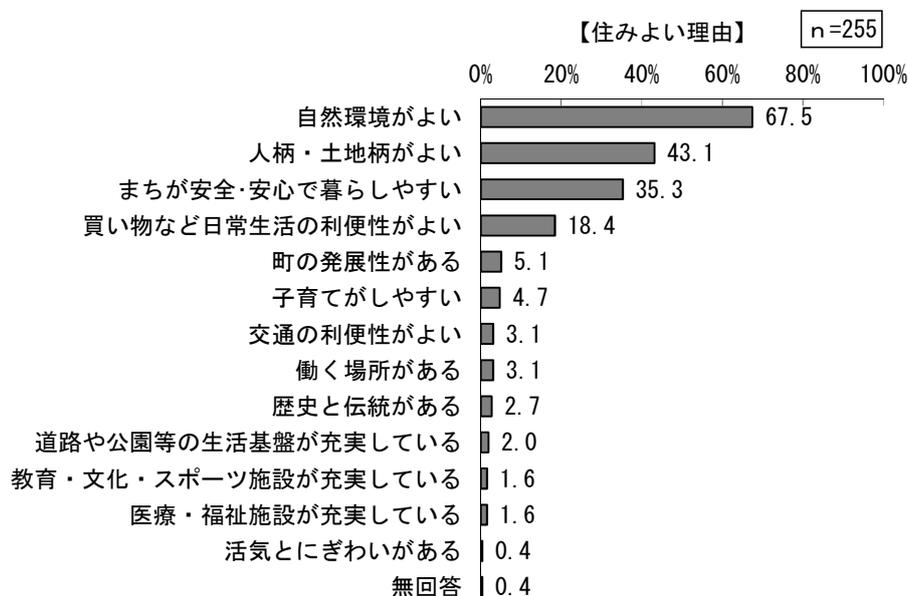
- 経年比較（※）でみると、「ふつう（どちらともいえない）」の割合が大幅に増加し、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」が低下している。



※平成27年度調査は調査対象年齢が前回調査と異なるため、参考データとして掲載

付問 問2で「1~2」または「4~5」に○をつけた方のみお答えください。
 ア 「1~2（住みよい、どちらかといえば住みよい）」の方の住みよい理由（主なもの2つまでに○）

- 住みよい理由は、「自然環境がよい」67.5%が最も多く、次いで「人柄・土地柄がよい」43.1%、「まちが安全・安心で暮らしやすい」35.3%と続く。



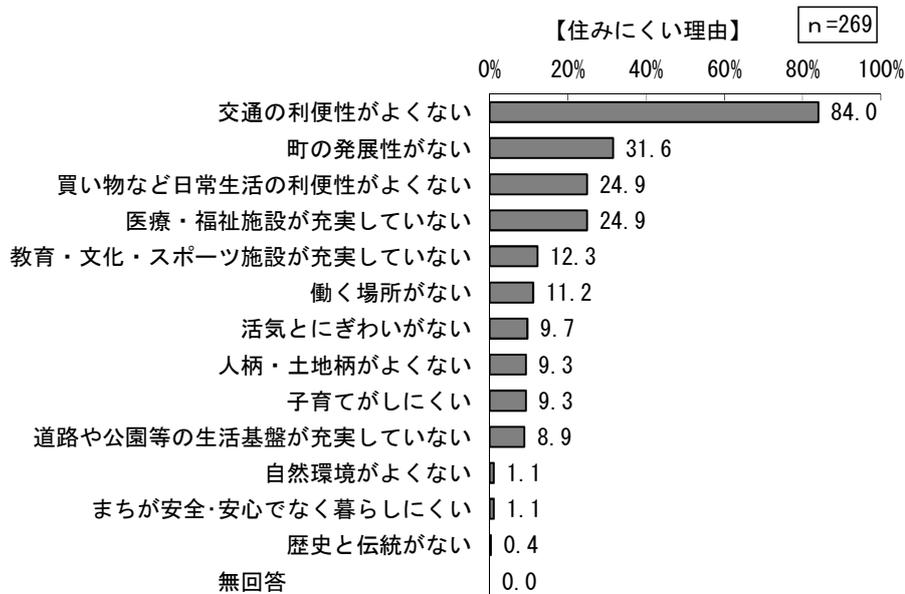
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
 ○ 経年比較（※）でも「自然環境がよい」と「人柄・土地柄がよい」の上位項目は同じである。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=255)	自然環境がよい 67.5	人柄・土地柄がよい 43.1	まちが安全・安心で暮らしやすい（※） 35.3
平成23年度 (n=487)	自然環境がよい 84.6	人柄・土地柄がよい 59.8	買い物など日常生活が便利 性がよい 29.0
平成20年度 (n=478)	自然環境がよい 80.5	人柄・土地柄がよい 56.1	買い物など日常生活が便利 性がよい 25.3

※平成27年度の第3位「まちが安全・安心で暮らしやすい」は前回までの選択肢にはない項目

イ 「4～5（どちらかといえば住みにくい、住みにくい）」の方の住みよい理由（主なもの2つまでに○）

- 住みにくい理由は、「交通の利便性がよくない」84.0%が最も多く、次いで「町の発展性がない」31.6%、「買い物など日常生活の利便性がよくない」「医療・福祉施設が充実していない」ともに24.9%と続く。

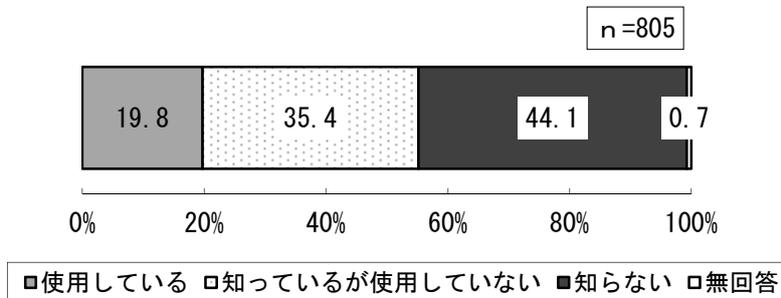


- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較でも「交通の利便性」「医療・福祉施設が充実」「買い物など日常生活の利便性」の上位3項目は同じであるが、前回までに比べて「町の発展性がない」（平成23年度25.2%、平成20年度26.4%）が多い。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=269)	交通の利便性がよくない 84.0	町の発展性がない 31.6	買い物など日常生活の利便性がよくない 医療・福祉施設が充実していない 24.9
平成23年度 (n=314)	交通の利便性がよくない 89.2	医療・福祉施設が充実していない 34.7	買い物など日常生活の利便性がよくない 34.1
平成20年度 (n=284)	交通の利便性がよくない 85.6	買い物など日常生活の利便性がよくない 41.9	医療・福祉施設が充実していない 38.7

問3 町から携帯電話等に防災情報・防犯情報・その他イベント情報等がメールで発信される「かわべえメール」があります。あなたは知っていますか。（1つに○）

- 「かわべえメール」について、「知らない」44.1%、「知っているが使用していない」35.4%、「使用している」19.8%。



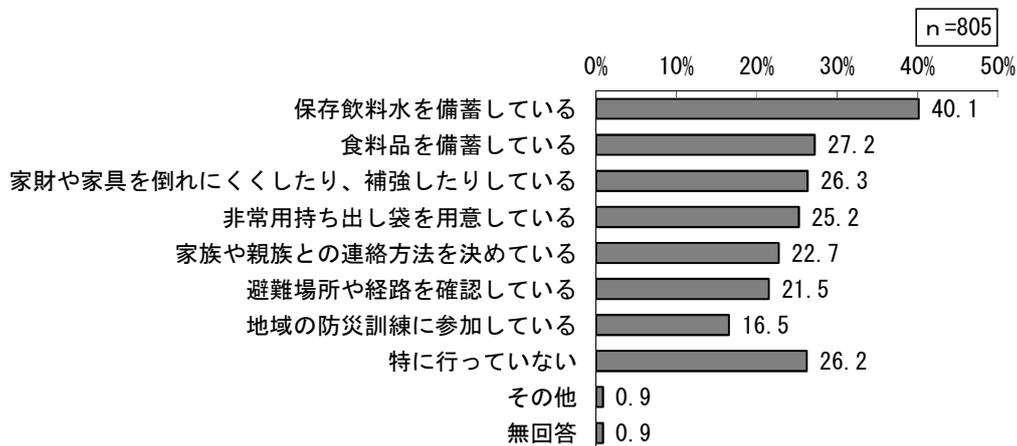
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向だが、10歳代～20歳代では「知らない」が他の年齢に比べて多い。

	合計	使用している	知っているが使用していない	知らない
全体	805	159	285	355
	100.0	19.8	35.4	44.1
男性	298	52	105	137
	100.0	17.4	35.2	46.0
女性	380	87	148	144
	100.0	22.9	38.9	37.9
18歳～19歳	9	0	4	5
	100.0	0.0	44.4	55.6
20歳～24歳	25	1	2	22
	100.0	4.0	8.0	88.0
25歳～29歳	29	4	5	20
	100.0	13.8	17.2	69.0
30歳～34歳	42	6	17	19
	100.0	14.3	40.5	45.2
35歳～39歳	51	12	23	16
	100.0	23.5	45.1	31.4
40歳～44歳	68	19	21	28
	100.0	27.9	30.9	41.2
45歳～49歳	53	18	19	16
	100.0	34.0	35.8	30.2
50歳～54歳	71	18	22	28
	100.0	25.4	31.0	39.4
55歳～59歳	88	17	36	34
	100.0	19.3	40.9	38.6
60歳～64歳	123	29	40	54
	100.0	23.6	32.5	43.9
65歳～69歳	170	28	64	76
	100.0	16.5	37.6	44.7
70歳以上	72	6	31	35
	100.0	8.3	43.1	48.6

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問4 あなたは日ごろから災害に備え、どのような準備を行っていますか。また、東日本大震災をきっかけにして、新たに準備を始めたものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 災害に備えた日頃からの準備は、「保存飲料水を備蓄している」40.1%が最も多く、次いで「食料品を備蓄している」27.2%、「家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている」26.3%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向だが、10歳代～20歳では「特に行っていない」が他の年齢に比べて多い。

	合計	家族や親族との連絡方法を決めている	保存飲料水を備蓄している	食料品を備蓄している	非常用持ち出し袋を用意している	家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている	避難場所や経路を確認している	地域の防災訓練に参加している	特に行っていない
全体	805	183	323	219	203	212	173	133	211
	100.0	22.7	40.1	27.2	25.2	26.3	21.5	16.5	26.2
18歳～19歳	9	1	1	0	2	1	1	0	5
	100.0	11.1	11.1	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	55.6
20歳～24歳	25	5	7	4	3	2	2	1	14
	100.0	20.0	28.0	16.0	12.0	8.0	8.0	4.0	56.0
25歳～29歳	29	7	5	4	4	4	2	0	14
	100.0	24.1	17.2	13.8	13.8	13.8	6.9	0.0	48.3
30歳～34歳	42	6	17	10	7	7	7	0	15
	100.0	14.3	40.5	23.8	16.7	16.7	16.7	0.0	35.7
35歳～39歳	51	10	21	12	13	9	16	4	14
	100.0	19.6	41.2	23.5	25.5	17.6	31.4	7.8	27.5
40歳～44歳	68	13	30	21	14	23	10	9	17
	100.0	19.1	44.1	30.9	20.6	33.8	14.7	13.2	25.0
45歳～49歳	53	12	19	18	10	12	13	8	15
	100.0	22.6	35.8	34.0	18.9	22.6	24.5	15.1	28.3
50歳～54歳	71	15	30	16	15	20	15	16	20
	100.0	21.1	42.3	22.5	21.1	28.2	21.1	22.5	28.2
55歳～59歳	88	20	33	23	28	28	15	13	19
	100.0	22.7	37.5	26.1	31.8	31.8	17.0	14.8	21.6
60歳～64歳	123	35	57	42	34	35	25	34	31
	100.0	28.5	46.3	34.1	27.6	28.5	20.3	27.6	25.2
65歳～69歳	170	37	77	46	53	47	46	36	31
	100.0	21.8	45.3	27.1	31.2	27.6	27.1	21.2	18.2
70歳以上	72	22	24	21	18	23	21	11	16
	100.0	30.6	33.3	29.2	25.0	31.9	29.2	15.3	22.2

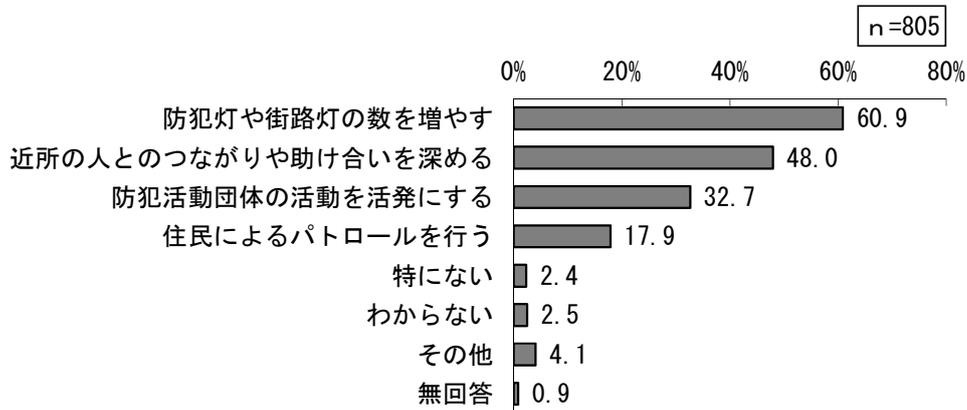
上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（その他、無回答は非表示）

- 経年比較でみると「保存飲料水を備蓄している」は増加しており、「特に行っていない」は減少している。また、「食料品を備蓄している」「家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている」は前回に比べて増加している。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度	保存飲料水を備蓄している 40.1	食料品を備蓄している 27.2	家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている 26.3
平成23年度	保存飲料水を備蓄している 35.9	特に行っていない 28.6	家族や親族との連絡方法を決めている 27.7
平成20年度	特に行っていない 41.2	保存飲料水を備蓄している 24.5	非常用持ち出し袋を用意している 23.5

問5 あなたは、犯罪を防止するために、地域や行政がどのような取り組みをしたらよいと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 犯罪を防止するために、地域や行政が取り組むべきことは、「防犯灯や街路灯の数を増やす」60.9%が最も多く、次いで「近所の人とのつながりや助け合いを深める」48.0%、「防犯活動団体の活動を活発にする」32.7%と続く。



- 属性別でもみても全体結果と概ね同様の傾向だが、65歳以上では「近所の人とのつながりや助け合いを深める」が他の年齢に比べて多い。

	合計	住民によるパトロールを行う	近所の人とのつながりや助け合いを深める	防犯活動団体の活動を活発にする	防犯灯や街路灯の数を増やす	特にない	わからない
全体	805	144	386	263	490	19	20
	100.0	17.9	48.0	32.7	60.9	2.4	2.5
18歳～19歳	9	1	2	2	3	2	1
	100.0	11.1	22.2	22.2	33.3	22.2	11.1
20歳～24歳	25	8	9	6	18	0	1
	100.0	32.0	36.0	24.0	72.0	0.0	4.0
25歳～29歳	29	6	9	11	18	1	1
	100.0	20.7	31.0	37.9	62.1	3.4	3.4
30歳～34歳	42	6	18	19	29	2	0
	100.0	14.3	42.9	45.2	69.0	4.8	0.0
35歳～39歳	51	8	24	17	33	0	2
	100.0	15.7	47.1	33.3	64.7	0.0	3.9
40歳～44歳	68	8	25	25	43	0	5
	100.0	11.8	36.8	36.8	63.2	0.0	7.4
45歳～49歳	53	7	13	22	36	1	2
	100.0	13.2	24.5	41.5	67.9	1.9	3.8
50歳～54歳	71	14	33	17	52	0	0
	100.0	19.7	46.5	23.9	73.2	0.0	0.0
55歳～59歳	88	12	38	37	54	2	0
	100.0	13.6	43.2	42.0	61.4	2.3	0.0
60歳～64歳	123	30	65	37	75	3	3
	100.0	24.4	52.8	30.1	61.0	2.4	2.4
65歳～69歳	170	29	106	50	91	5	5
	100.0	17.1	62.4	29.4	53.5	2.9	2.9
70歳以上	72	15	42	19	35	3	0
	100.0	20.8	58.3	26.4	48.6	4.2	0.0

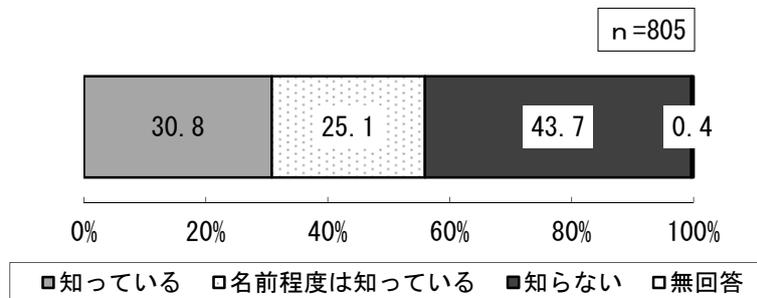
上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（その他、無回答は非表示）

- 経年比較でも「防犯灯や街灯の数を増やす」「近所の人とのつながりや助け合いを深める」「防犯活動団体の活動を活発にする」の上位3項目は同じである。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度	防犯灯や街灯の数を増やす 60.9	近所の人とのつながりや助け合いを深める 48.0	防犯活動団体の活動を活発にする 32.7
平成23年度	防犯灯や街灯の数を増やす 59.5	近所の人とのつながりや助け合いを深める 54.5	防犯組織の活動を活発にする 32.1
平成20年度	防犯灯や街灯の数を増やす 70.0	近所の人とのつながりや助け合いを深める 49.0	防犯組織の活動を活発にする 39.2

問6 町では、高齢者の方などの日常生活の困り事を手助け（買物、通院の送迎、付き添い等）するために「かわじま安心お助け隊」を設置しています。あなたは、そのサービスを知っていますか。（1つに○）

- 「かわじま安心お助け隊」について、「知らない」43.7%、「知っている」30.8%、「名前程度は知っている」25.1%。



- 属性別でもみて全体結果と概ね同様の傾向だが、65歳以上では「知っている」が他の年齢に比べて多い。

	合計	知っている	名前程度は知っている	知らない
全体	805	248	202	352
	100.0	30.8	25.1	43.7
18歳～19歳	9	0	0	9
	100.0	0.0	0.0	100.0
20歳～24歳	25	2	1	22
	100.0	8.0	4.0	88.0
25歳～29歳	29	4	2	23
	100.0	13.8	6.9	79.3
30歳～34歳	42	4	7	31
	100.0	9.5	16.7	73.8
35歳～39歳	51	14	15	22
	100.0	27.5	29.4	43.1
40歳～44歳	68	11	15	42
	100.0	16.2	22.1	61.8
45歳～49歳	53	15	13	25
	100.0	28.3	24.5	47.2
50歳～54歳	71	15	22	34
	100.0	21.1	31.0	47.9
55歳～59歳	88	28	21	39
	100.0	31.8	23.9	44.3
60歳～64歳	123	41	35	47
	100.0	33.3	28.5	38.2
65歳～69歳	170	76	46	47
	100.0	44.7	27.1	27.6
70歳以上	72	38	24	8
	100.0	52.8	33.3	11.1

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

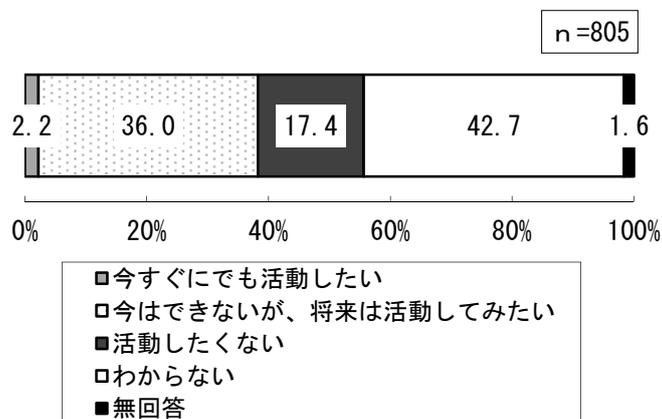
- 地区別でも全体結果と概ね同様の傾向だが、出丸、ハツ保では「知っている」が他の地区に比べて多い。

	合計	知っている	名前程度は知っている	知らない
全体	805	248	202	352
	100.0	30.8	25.1	43.7
中山（市街化区域）	166	47	44	74
	100.0	28.3	26.5	44.6
中山（市街化調整区域）	51	9	11	31
	100.0	17.6	21.6	60.8
伊草（市街化区域）	158	39	39	80
	100.0	24.7	24.7	50.6
伊草（市街化調整区域）	41	14	9	18
	100.0	34.1	22.0	43.9
三保谷	91	29	28	34
	100.0	31.9	30.8	37.4
出丸	91	41	20	30
	100.0	45.1	22.0	33.0
ハツ保	87	39	17	30
	100.0	44.8	19.5	34.5
小見野	88	25	30	33
	100.0	28.4	34.1	37.5

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問7 あなたは「かわじま安心お助け隊」として活動したいですか。

- 「かわじま安心お助け隊」として活動したいかは、「わからない」42.7%が最も多く、次いで「今はできないが、将来は活動してみたい」36.0%、「活動したくない」17.4%と続く。



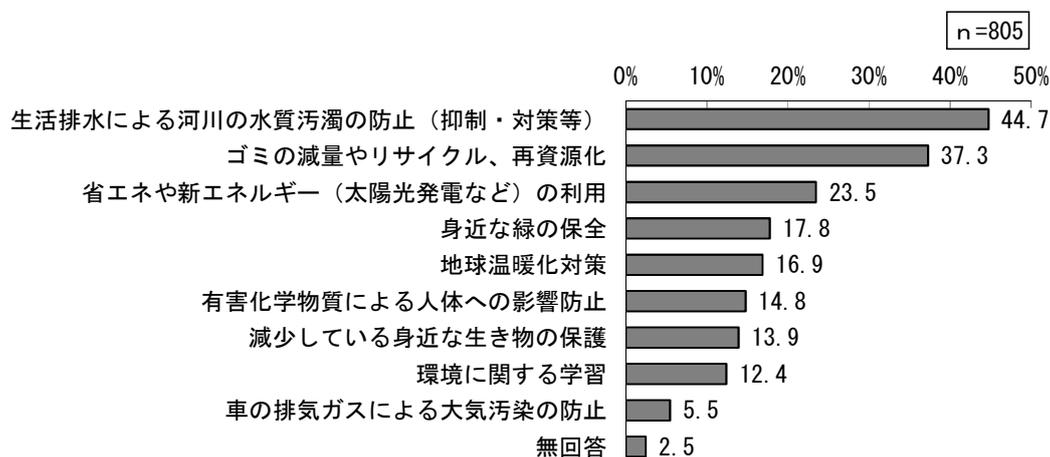
- 職業別でもみて全体結果と概ね同様の傾向だが、経営者、会社役員、自営業、会社員・団体職員（正規雇用）、公務員では「今はできないが、将来は活動してみたい」が他の職業に比べてやや多い。

	合計	今すぐにでも活動したい	今はできないが、将来は活動してみたい	活動したくない	わからない
全体	805	18	290	140	344
	100.0	2.2	36.0	17.4	42.7
農業	58	2	22	5	26
	100.0	3.4	37.9	8.6	44.8
経営者、会社役員、自営業	84	2	36	16	28
	100.0	2.4	42.9	19.0	33.3
会社員・団体職員（正規雇用）	187	1	86	34	66
	100.0	0.5	46.0	18.2	35.3
派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託	164	3	54	21	84
	100.0	1.8	32.9	12.8	51.2
公務員	35	0	18	7	10
	100.0	0.0	51.4	20.0	28.6
学生	15	1	4	5	5
	100.0	6.7	26.7	33.3	33.3
無職	220	8	57	42	109
	100.0	3.6	25.9	19.1	49.5
1～7以外	36	1	11	7	15
	100.0	2.8	30.6	19.4	41.7

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問10 自然環境・生活環境の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思いますか。（主なもの2つまで○）

- 自然環境・生活環境について重点的に進めていくべき施策は、「生活排水による河川の水質汚濁の防止」44.7%が最も多く、次いで「ゴミの減量やリサイクル、再資源化」37.3%、「省エネや新エネルギーの利用」23.5%と続く。

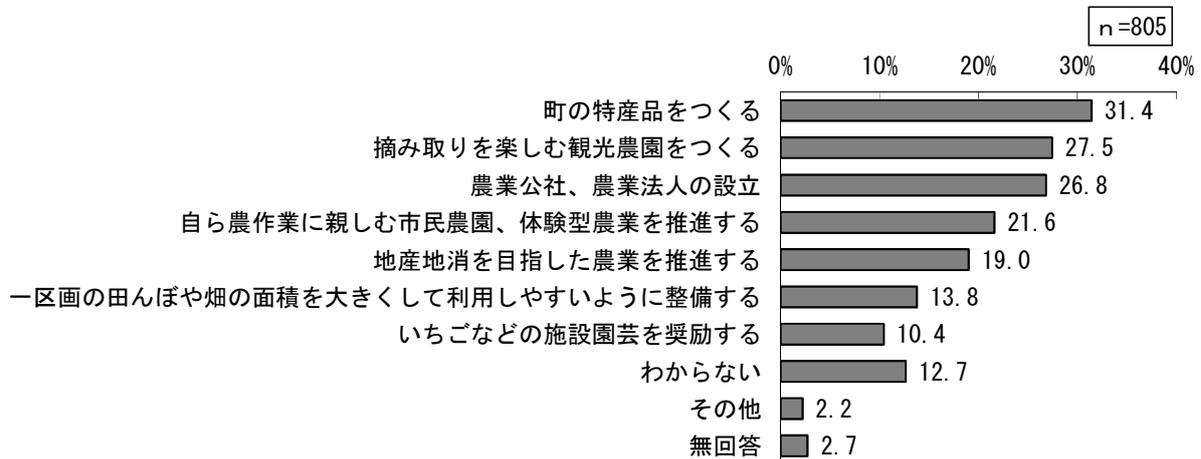


- 属性別でも上位3項目は全体結果と同様の傾向である。
- 経年比較でも平成23年度と上位3項目は同じである。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=805)	生活排水による河川の水質汚濁の防止 (抑制・対策等) 44.7	ゴミの減量やリサイクル、再資源化 37.3	省エネや新エネルギー (太陽光発電など)の 利用 23.5
平成23年度 (n=912)	生活排水による河川の水質汚濁の防止 (抑制・対策等) 47.1	省エネや新エネルギー (太陽光発電など)の 利用 37.0	ゴミの減量やリサイクル、再資源化 35.3
平成20年度 (n=922)	生活排水による河川の水質汚濁の防止 (抑制・対策等) 51.1	ゴミの減量やリサイクル、再資源化 40.6	地球温暖化対策 34.7

問13 町の農業を振興するために、どのような農業経営を進めるべきだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 町の農業振興のための取り組みは、「町の特産品をつくる」31.4%が最も多く、次いで「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」27.5%、「農業公社、農業法人の設立」26.8%と続く。



- 属性別でも上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較（※）では、「町の特産品をつくる」と「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」が平成20年度と同じく、再び上位に挙げられた。

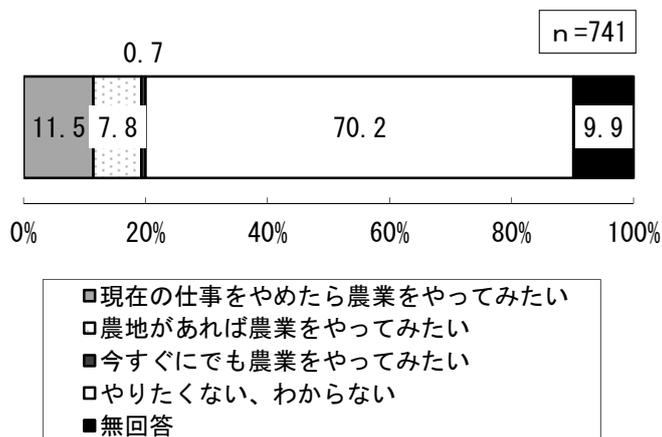
	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=805)	町の特産品をつくる 31.4	摘み取りを楽しむ観光農園をつくる 27.5	農業公社、農業法人の設立 26.8
平成23年度 (n=912)	自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する 33.9	一区画の田んぼや畑の面積を大きくして利用しやすいように整備する 28.6	いちごなどの施設園芸を奨励する 26.9
平成20年度 (n=922)	町の特産品をつくる 45.2	摘み取りを楽しむ観光農園をつくる 26.8	自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する 23.2

※平成27年度の第3位「農業公社、農業法人の設立」は前回までの選択肢にはない項目

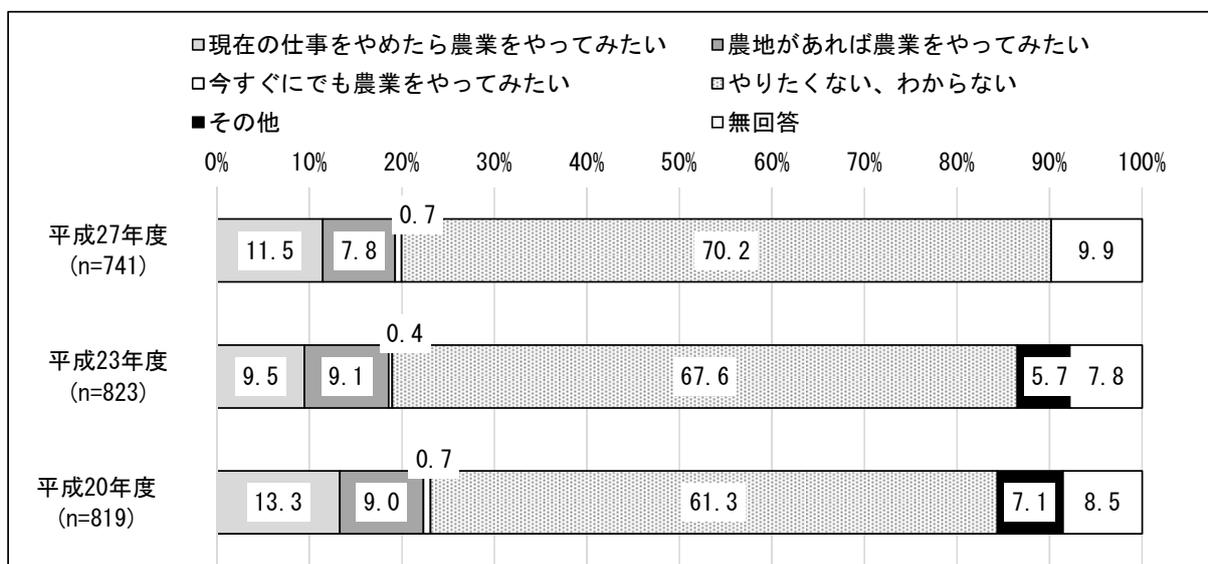
◆ 問 14 及び付問のみ、職業が農業以外の方におうかがいします。

問14 あなたは、新たに農業に就いてみたいという考えはありますか。(1つに○)

- 新たに農業に就いてみたいかは、「やりたくない、わからない」70.2%が最も多く、次いで「現在の仕事をやめたら農業をやりたい」11.5%、「農地があれば農業をやりたい」7.8%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
 ○ 経年比較(※)でも、農業への就業意欲に大きな変化はみられない。

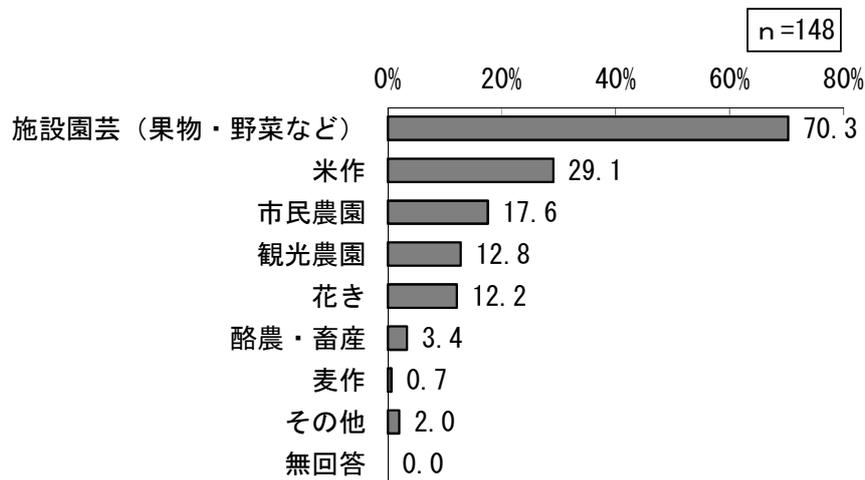


※平成27年度に「その他」の選択肢はない

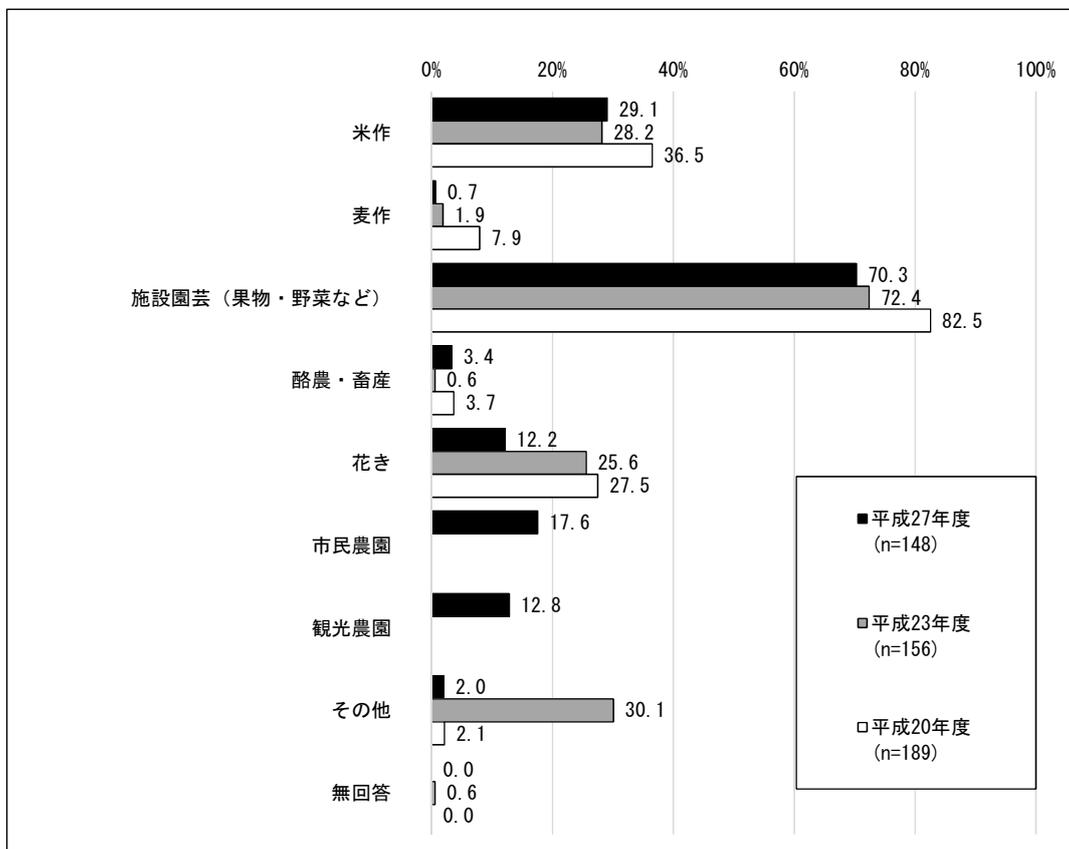
付問 問 14 で「1～3（農業をやってみたい）」に○をつけた方のみお答えください。

①やってみたい農業は何ですか。（主なもの2つまでに○）

- やってみたい農業は、「施設園芸（果物・野菜など）」70.3%が最も多く、次いで「米作」29.1%、「市民農園」17.6%と続く。



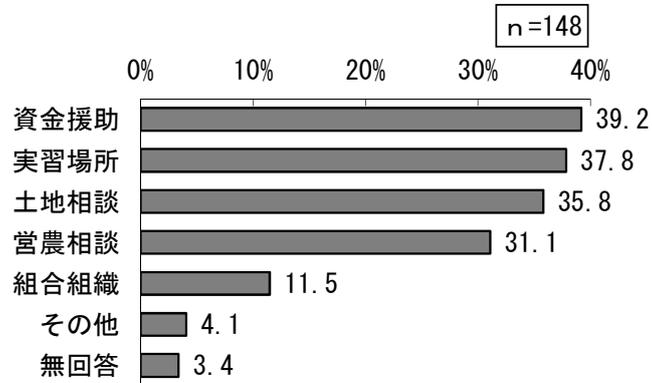
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較（※）でも、「施設園芸（果物・野菜など）」が多い傾向は同じである。



※平成 27 年度の「市民農園」「観光農園」は前回までの選択肢にはない項目

②やってみたい農業に必要なことは何ですか。（主なもの2つまでに○）

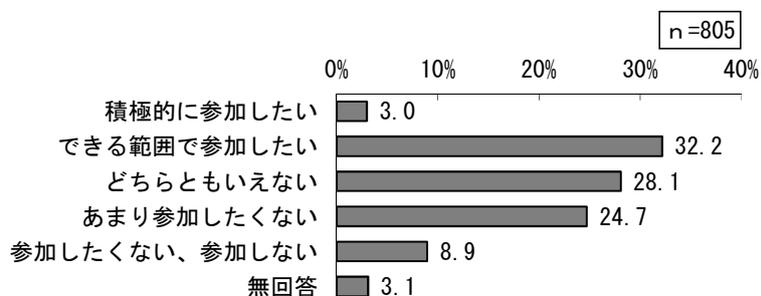
- やってみたい農業に必要なことは、「資金援助」39.2%が最も多く、次いで「実習場所」37.8%、「土地相談」35.8%と続く。



- 属性別で見ると必要なことはそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。

問18 あなたは地域活動やボランティア活動などに参加したいですか。(1つに○)

- 地域活動やボランティア活動への参加について、「できる範囲で参加したい」32.2%が最も多く、次いで「どちらともいえない」28.1%、「あまり参加したくない」24.7%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 年齢別で見ると、20歳代前半で、参加意向あり（積極的に参加したい+できる範囲で参加したい）が4割と多く、20歳代後半と70歳以上では参加意向なし（あまり参加したくない+参加したくない、参加しない）が5割と多い。

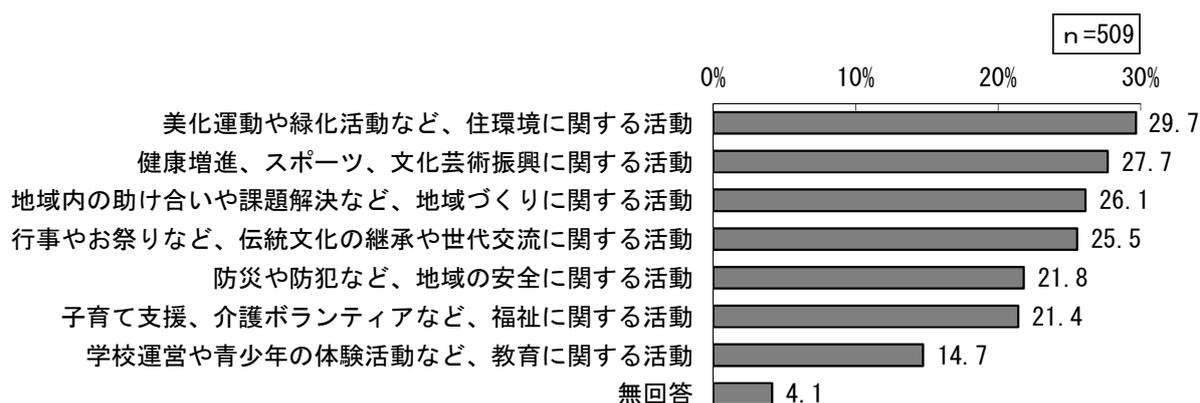
	合計	積極的に参加したい	できる範囲で参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	参加したくない、参加しない
全体	805	24	259	226	199	72
	100.0	3.0	32.2	28.1	24.7	8.9
18歳～19歳	9	3	1	1	1	3
	100.0	33.3	11.1	11.1	11.1	33.3
20歳～24歳	25	0	11	6	6	2
	100.0	0.0	44.0	24.0	24.0	8.0
25歳～29歳	29	0	6	8	10	5
	100.0	0.0	20.7	27.6	34.5	17.2
30歳～34歳	42	0	10	17	11	4
	100.0	0.0	23.8	40.5	26.2	9.5
35歳～39歳	51	2	17	20	6	5
	100.0	3.9	33.3	39.2	11.8	9.8
40歳～44歳	68	3	15	24	22	4
	100.0	4.4	22.1	35.3	32.4	5.9
45歳～49歳	53	1	18	14	13	6
	100.0	1.9	34.0	26.4	24.5	11.3
50歳～54歳	71	2	22	25	17	3
	100.0	2.8	31.0	35.2	23.9	4.2
55歳～59歳	88	5	29	23	25	5
	100.0	5.7	33.0	26.1	28.4	5.7
60歳～64歳	123	4	44	31	27	13
	100.0	3.3	35.8	25.2	22.0	10.6
65歳～69歳	170	4	63	46	35	11
	100.0	2.4	37.1	27.1	20.6	6.5
70歳以上	72	0	21	9	26	11
	100.0	0.0	29.2	12.5	36.1	15.3

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

付問 問 18で「1~3」に○をつけた方のみお答えください。

次のうち、どのような活動をしたいですか。（主なもの2つまでに○）

- 地域やボランティア活動への参加意向がある方のうち、やってみたい活動は「美化活動や緑化活動など、住環境に関する活動」29.7%が最も多く、次いで「健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動」27.7%、「地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動」26.1%と続く。



- 経年比較（※）では、前回と同じく、環境保全、生涯学習に関する活動が上位に挙げられた。前回の選択肢にはなかった地域づくりに関する活動が第3位に入っている。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=509)	美化活動や緑化活動など 29.7	健康増進、スポーツ、文化芸術振興 27.7	地域づくりに関する活動 26.1
平成23年度 (n=912)	環境保全 12.1	生涯学習 11.3	保健・医療・福祉 11.0
平成20年度 (n=922)	保健・医療・福祉 12.6	生涯学習 10.6	子どもの健全育成 9.7

※平成27年度と前回までの調査とは対象者、選択肢が異なるため、参考データ

- 属性別でみると活動種目はそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。
- なお、前問の結果で参加意向が比較的高い20歳代前半では「行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動」が最も多い。

	合計	地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動	行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動	学校運営や青少年の体験活動など、教育に関する活動	健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動	子育て支援、介護ボランティアなど、福祉に関する活動	美化運動や緑化活動など、住環境に関する活動	防災や防犯など、地域の安全に関する活動
全体	509 100.0	133 26.1	130 25.5	75 14.7	141 27.7	109 21.4	151 29.7	111 21.8
18歳～19歳	5 100.0	0 0.0	2 40.0	3 60.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
20歳～24歳	17 100.0	2 11.8	11 64.7	3 17.6	7 41.2	3 17.6	3 17.6	1 5.9
25歳～29歳	14 100.0	2 14.3	5 35.7	3 21.4	4 28.6	4 28.6	3 21.4	1 7.1
30歳～34歳	27 100.0	5 18.5	11 40.7	4 14.8	7 25.9	7 25.9	7 25.9	4 14.8
35歳～39歳	39 100.0	5 12.8	14 35.9	6 15.4	14 35.9	11 28.2	9 23.1	11 28.2
40歳～44歳	42 100.0	6 14.3	12 28.6	7 16.7	15 35.7	10 23.8	9 21.4	4 9.5
45歳～49歳	33 100.0	11 33.3	8 24.2	10 30.3	6 18.2	9 27.3	9 27.3	4 12.1
50歳～54歳	49 100.0	13 26.5	9 18.4	6 12.2	12 24.5	10 20.4	16 32.7	10 20.4
55歳～59歳	57 100.0	16 28.1	13 22.8	8 14.0	12 21.1	15 26.3	17 29.8	12 21.1
60歳～64歳	79 100.0	26 32.9	16 20.3	8 10.1	26 32.9	14 17.7	33 41.8	18 22.8
65歳～69歳	113 100.0	41 36.3	21 18.6	11 9.7	24 21.2	18 15.9	32 28.3	36 31.9
70歳以上	30 100.0	5 16.7	6 20.0	5 16.7	10 33.3	5 16.7	13 43.3	9 30.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

※問21は、自由意見欄のため、別冊に掲載。なお、「第5次川島町総合振興計画策定及び地方創生のための町民アンケート」と併せて実施したものであり、該当する部分を抜粋したものである。